

令和3年度 第2回熊本市移動等円滑化推進協議会 議事要旨

I 開催日時

令和4年2月18日(金) 14:00～15:30

II 開催場所

Microsoft Teams によるオンライン会議

III 委員名簿 20名（うち欠席3名：河本委員、福島委員、安田委員）

氏名		所属・職業・分野等 ※50音順・敬称略
○相藤 絹代	あいとう きぬよ	熊本学園大学非常勤講師
井坂 智徳	いざか ともり	九州旅客鉄道(株)熊本支社 副支社長
岩永 謙二	いわたが けんじ	熊本県バス協会乗合業務委員会 委員（九州産交バス(株)営業部長）
植田 洋平	うへだ ようへい	熊本障害フォーラム事務局
内田 義朗	うちだ よしろう	熊本県警察本部交通部交通規制課長
オノユリ	おのゆり	子育てネットワーク「縁側 moyai」代表
河本 英典	かわもと ひでのり	熊本市交通局 次長
黒木 三奈子	くろき みなこ	(一財)熊本国際観光コンベンション協会 事業推進課長
坂口 美果	さかぐち みか	公募委員
佐藤 哲	さとう さとし	熊本県立大学環境共生部 准教授
高梨 沙織	たかなし さおり	熊本市PTA協議会 市P担当副会長 部会長
竹内 久美	たけうち くみ	(公社)熊本県理学療法士協会 理事
土肥 桂子	どい けいこ	熊本市東区土木センター維持課 主査
長江 浩史	ながえ こうじ	WeDO くまもと 代表
中野 育生	なかの いくお	熊本電気鉄道(株) 鉄道事業部 副部長
西脇 考志	にしわき こうじ	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官
福島 英隆	ふくしま ひでたか	(一社)熊本市タクシー協会 専務理事
増永 創	ますなが はじめ	熊本駐車場協会 事務局長
安田 二郎	やすだ じろう	熊本市商店街連合会 会長
◎八幡 彩子	やはた あやこ	熊本大学大学院教育学研究科 教授

◎会長、○副会長

IV 次第

1 開会

2 事務局挨拶

3 議事

- (1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）
- (2) マスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方
- (3) その他（今後の機運醸成等について）
 - ・キャッチコピーの募集
 - ・取組照会（WeDO くまもと）

4 閉会

V 議事要旨

<事務局から、議事について説明>

- (1) 意見聴取結果について（アンケート調査等）
- (2) マスタープランの対象範囲や取組方針設定の考え方

植田委員

- ・アンケートでは、区ごとの集計で各地域のバリアフリーへの満足度や課題が見えてくると思うので、地区ごとでの集計をお願いしたい。また、その他意見として、①多核連携都市を推進する上での移動円滑化の促進と実効性の確保のための助成制度、②生活の基盤となる住宅を確保するための空き家の活用、③ソフト面のバリアフリーの柔軟な運用について検討をお願いしたい。

竹内委員

- ・次回、アンケートを実施する際は、「移動したいけどなかなか行けない」と思っている方が多いと思われることから、アンケートの中に「“こういうふうになったら行ってみたい”というところがありますか」のような設問を追加していただくとありがたい。

相藤委員

- ・災害時には、様々な障がいを持つ方たちが一堂に会することになる。同じ場所で過ごすのは難しい方が、個別に過ごすことができるような空間として、空き教室などの確保を考えていただけたらよい。
- ・小学校のトイレについては、順次改善していく予定と聞き安心した。障がい者用トイレを設置するだけでなく、設置する場所や、使いやすさを検討した上で設置していただけたらよい。

佐藤委員

- ・中心市街地や九品寺・水前寺、健軍周辺にももちろん空き家はあるが、この辺りは家や土地の利用価値が高いことから、地域の課題となっているような利活用されない空き家にはならないと思われる。この3地域の外にあるような空き家の活用が重要と考える。

八幡会長

- ・心のバリアフリーを周知するのに、今回調査対象にされた高齢の方や障がいをお持ちの方、それ以外のいろいろな方がいらっしゃるが、そのような方たちこそ心のバリアフリーという考え方を普及して、実現に繋げていただくとありがたい。
- ・本日は、バスでこちらに伺ったが、運転手は高齢者の方が席に着かれることを丁寧に確認し、運転していただいていた。「心のバリアフリー」という言葉をご存知なくても、具体的な行動に繋がっている方もいることから、暮らしている方の暮らしやすさのみならず、観光・その他で熊本においていただいた方に好印象に繋がる取組になるとよい。

相藤委員

- ・先日大学で、学生に心のバリアフリーを知っているかという質問をしたところ、誰も知らなかったため本当に驚いた。心のバリアフリーという言葉自体を知らない方はたくさんいらっしゃるけれども、小さいときから、思いやりなどは形成されていると思うので、心のバリアフリーという言葉が浸透させていただけたらいい。

- (3) その他（今後の機運醸成等について）

八幡会長

- ・このキャッチコピーも、私たちが取り組む上で、理念を表したり、魅力的なものがあると動機づけになったりする。キャッチコピーづくりに学校等でも取り組んでいただくと、心のバリアフリー等に関心を寄せていただく方が増えるのではないかとと思われるので、結果としてどのキャッチコピーが採用されるかということに拘らず、広く市民の皆様で取り組んでいただくとありがたい。

井坂委員

- ・今回、機運醸成という意味でキャッチコピーを募るということだが、いかに皆さんに周知を図るかというところが大事になってくると思われる。

事務局

- ・キャッチコピーは幅広い方から応募いただきたいと考えており、市内の学校にはお声掛けをしたいと考えている。心のバリアフリーなどの教育についても、テレビやラジオ等の広報に関する次に、学校での教育が重要というお声もあることから、キャッチコピーと同様に、教育現場への周知を考えているところ。

黒木委員

- ・キャッチコピーの公募について、キャッチコピーだけではなくロゴマークのようなものもあれば、市民の意識醸成のための啓発という点で広がりが出てくると思われる。心のバリアフリー認定制度という制度もあることから、観光に携わる宿泊施設や観光施設、観光案内所等では、是非認定を受けていただきたい。

相藤委員

- ・キャッチコピーについては、1本に絞る必要はないので、小学校で出てきたキャッチコピー、大人の人権団体から出てきたキャッチコピー等、いくつかあって、市民の目に触れられるような表示をしてみてもよいのではないかと。

坂口委員

- ・キャッチコピーを募集するだけではなく、そもそも心のバリアというものがなぜ生まれるのかをきちんと考えていかないといけない。「なぜ心にバリアがあるのか」、「なぜ心のバリアフリーというのをわざわざ言わないとできないようなことなのか」という根本的なところを考えるのが非常に大事なことだと思っている。

相藤委員

- ・障がいのある方たちへの差別を無くしていこうということで心のバリアフリーという言葉が生まれている。現在では、差別解消法も制定されており、全ての差別の解消や、心のバリアをなくそうということから出てきたものだとして理解している。そういうところも含めて丁寧に説明していかなければならない。

八幡会長

- ・レゴブロックを使った取組など、大変勉強になった。皆様の中にはこのような取組と繋がってみたいと思われた方もいるかもしれないので、その時は、WeDOくまもとにご連絡いただくとよろしいかと思う。また、今後のまち歩きの際にこうした取組が生かしていけるとよい。

以上